震災の記憶と復興の姿

…震災伝承施設　…より良い復興 ビルド・バック・ベター　…中長期的課題

❶地下水族科学館もぐらんぴあ

東日本大震災津波で全壊した地下水族科学館は、平成 28 年に元の場所で再開しました。「防災展示室あーすぴあ」を整備し、発災当時の状況や復興のあゆみを紹介し、防災学習や視察にも対応しています。

❷普代水門

普代水門（昭和 59 年建設・高さ 15.5 m）と太田名部防潮堤（昭和 42 年建設）は、役場や普代分署などがある村中心部に津波を到達させることなく被害を最小限にとどめました。
＜施設に関する窓口＞
岩手県県北広域振興局　TEL：0194-53-5990

❸震災遺構明戸海岸防潮堤

津波によって決壊した防潮堤が、被災当時の姿のままに保存されています。地元の住民ガイドが、「大津波語り部＆ガイド」プログラムを提供しています。

❹津波遺構たろう観光ホテル

高さ 17 メートルを超える津波の被害を受け、4 階まで浸水、2 階までは柱を残して流失したものの、倒壊を免れた「たろう観光ホテル」を津波遺構として保存整備しています。

❺大槌町文化交流センターおしゃっち

大槌町の御社地エリアに建つ大槌町文化交流センターで、図書館や震災伝承展示の機能を備え、震災後の町の状況や復興の様子を伝えていくという役割も担っています。

❻いのちをつなぐ未来館・釜石祈りのパーク

大震災の出来事や教訓を後世に伝え、防災学習を推進する拠点施設で、釜石市内外からの来館者に有機的な防災学習体験プログラムを提供しています。釜石祈りのパークは「鵜住居地区防災センター」の跡地に「津波による犠牲をなくし、未来の命を守るために」を基本理念とし、東日本大震災の犠牲者を慰霊、追悼する施設として整備されました。

❼大船渡市立博物館

東日本大震災津波での大船渡市の被害に関する企画展や、映像資料「荒れ狂う海～津波常習地・大船渡」を常設で上映しています。また、過去の津波の記録や歴史資料をまとめて展示し教訓として伝えています。

❽東日本大震災津波伝承館いわてTSUNAMIメモリアル

先人の英知に学び、東日本大震災津波の事実と教訓を世界中の人々と共有し、自然災害に強い社会を一緒に実現することを目指すとともに、東日本大震災津波を乗り越えて進む姿を、支援への感謝とともに発信しています。

釜石鵜住居復興スタジアム、ラグビーワールドカップ2019™岩手・釜石開催

震災で被害を受けた旧鵜住居小学校、釜石東中学校の跡地に鵜住居復興スタジアムが建設され、ラグビーワールドカップ 2019™ が開催されました。 震災当時、児童・生徒は、手に手を取り合って約 2 km の坂道を駆け上がり、津波から逃れて避難したことは、次世代に伝える教訓となっています。

まちなか再生計画に基づく商業施設の整備

被災したまちなかの商業施設の本格整備のため、「まちなか再生計画」に基づき、商業施設の整備と周辺のまちづくりが一体となって進められています。山田町では共同店舗オール、大船渡市ではキャッセン大船渡、釜石市では鵜住居にうのポート、陸前高田市ではアバッセたかたが完成しています。

復興道路等の整備

災害に強い道路ネットワークを構築するため、三陸沿岸の縦貫軸及び内陸部と沿岸部を結ぶ高規格幹線道路等を「復興道路」として整備を促進しています。

海岸保全施設等の復旧・整備

復興まちづくりと防潮堤・水門の復旧整備は一体となって進められ、人命と財産を守るため専門家による知見を踏まえ、高さや配置を検討しました。また、震災時に水門、陸こうの閉鎖作業に関わり多くの消防団員が犠牲となった事実を踏まえ、衛星回線を活用し、門扉の閉鎖などを自動で行う「水門・陸こう自動閉鎖システム」の整備を進めています。

こころのケアの取組

被災者が安心して心豊かに暮らすことができるよう、生活支援相談員による見守り相談や、災害公営住宅等におけるコミュニティ形成の支援を行うとともに、こころのケアセンターによる専門的な相談支援を行うなど、被災者の皆さんの生活再建のステージに応じた切れ目のない支援に引き続き、取り組んでいく必要があります。

三陸鉄道リアス線誕生

三陸鉄道は、震災により甚大な被害を受け、全線が不通となりました。クウェート政府をはじめ、多くの企業、団体、個人から支援をいただき、平成 26 年 4 月に南・北リアス線全線で運行を再開しました。平成 31 年 3 月に旧 JR 山田線が経営移管され、国内の第 3 セクターとしては最長となる 163km（盛－久慈間）が、新たに三陸鉄道リアス線として生まれ変わりました。

グループ補助金による中小企業等の再建支援

東日本大震災津波により被災した中小企業者などが一体となって進める施設・設備の復旧・整備を支援するため、「岩手県中小企業等復旧・復興支援補助事業」（グループ補助）を実施しています。

コミュニティ形成支援の取組

被災された方が恒久的な住宅へ移った後も安心して心豊かに暮らせる生活環境を実現することが求められていることから、住民相互のコミュニケーションを維持するとともに、地域の結束力が更に強まるよう復興のステージに応じた地域コミュニティ活動の環境を整備していく必要があります。

三陸防災復興プロジェクト2019

令和元年 6 月 1 日から 8 月 7 日までを会期とした三陸地域全体を舞台とする総合的な防災復興行事です。「三陸がつながる。日本各地や世界とつながる。ひとつになって更に前に進む。」を基本コンセプトとし、復興の今と三陸の魅力を発信しました。

災害公営住宅の整備

沿岸市町村及び県では、東日本大震災津波の被災者向け住宅として、比較的低廉な家賃で入居できる災害公営住宅を整備しています。沿岸部では建設予定全ての災害公営住宅が完成しています。また、令和 2 年度中には県内全ての災害公営住宅が完成します。

なりわいの再生

被災した漁船や養殖施設の整備が完了したほか、多くの被災事業所が事業を再開し、大型商業施設や共同店舗が開業するなど、復興は着実に進んでいます。一方で、水産業では水揚げ量の回復や担い手の確保、商工業では販路の回復や従業員の確保といった課題があります。